エーデル研修会 レジュメ

**エーデル８は最強だ！**

藤 野　稔 寛

1. エーデル８パックのインストール

C:\Edel8Pack が作られて、インストールされる。旧バージョンがあると、上書きされて更新される。アンインストールは「コントロールパネル」の「プログラム」から。（単に削除しても良い。）

初期化ファイル（Edel\_810\_Shokika.ini など）はインストールされないため、上書きで更新されることもない。

1. ２つのモード EdelPaper , EdelBook と３つの拡張子 .edl , .ebk , .hebk

文章の扱いが異なる。（どれにも点図としての点字は書き込める。）

.edl → 文章は含められない。点図だけの1ページのデータ。

.ebk → 文章は他の点訳ソフトのものそのままである。unlha32.dll が必要。

.hebk → 文章を独自に作成できる。他の点訳ソフトの文章を使うこともできる。エーデル７以降

２．点図の基本的要素

　(1) 点

　　　　大点・・・中点とあまり変わらない。→　「ジャンボ点」の必要性

 中点・・・点字の点と同じ。

　　　　小点・・・中点との区別がつく。

 補点・・・印刷されないし、上書きしない。→　下書き、書き直し、位置の目安

 　裏点（凹点）・・・グラフの背景（方眼）など　→　横方向の位置合わせが必要

　　　　⇒ ＥＳＡ７２１Ｐｒｏ は裏点（凹点）を表から編集できる。

　(2) 線

 点のサイズと間隔が線の種類を決める。「実線」以外に「破線」もある。

点間隔の単位「ドット」は点字プリンタの打点ピッチのことである。

　　　　ＥＳＡ７２１のピッチは横方向が 0.3454mm、縦方向が 0.3175mm → 補正する必要がある。

 ⇒ ＴＥＮ１００、ＥＳＡ６００Ｇ のピッチは 縦・横同じ。

⇒ ＥＳＡ６００Ｇ のピッチは ＥＳＡ７２１ の 約７０％（つまり、打点できる位置の総数が約2倍あることになる。）

　(3) 面

面を塗るかどうか？　基本は輪郭線。塗る場合も、輪郭を描いてからその中を塗る。

３．EDLファイルのオープンと保存

　(1) 「開く」、「履歴から開く」、ドラッグ＆ドロップ、関連付け

　　　EdelBook編集時でも大丈夫

　(2) F10キー、Ctrl + S で上書き保存

４．作図領域

1. 表示倍率を ５０％ ～ ２００％で変えられる。

作図領域の全体が表示できないことが多く、縮小表示の要望は強かったが、問題があった。

「全体イメージの表示」はできるが。

1. 縦位置 ←→ 横位置、Ｂ５ ←→ Ａ４ の切り替えができる。

　　　　横位置の文章は不可能。点字プリンタが対応していないから。

５．線分　　-- 斜線・縦横線・折れ線

　(1) 始点と終点には打点される。「枠線」の交点も同様である。マウスのドラッグは使わない。

　(2) 間隔の正確性には解像度の限界がある。

　(3) 枝線を描く方法

 「点の右下からその点の位置を指定する」　　← 矢印キーとＥｎｔｅｒキーの利用

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ａｌｔ＋Ｅｎｔｅｒ＝右クリック）

６．曲線

　(1) 「自由曲線」はゆっくり描く必要があり、難しい。→　「連続弓腺」が有効

　　　　「自由曲線」は、右クリックで「消しゴム」にもなる。点間隔の値が消しゴムのサイズを決める。

　(2) 「スプライン補間曲線」は強力！

 間隔も含めて滑らかに接続することが特徴。

 中継点の間隔を狭くすると良いかもしれない。ただし、最大５０個までの制限がある。

 右クリックによるやり直しが有効。

　　　　終点付近で左クリック → 決定。　始点付近で左クリック → 閉曲線

７．各種の図形・グラフ

　(1) 「グリッド」を活用すると、図の大きさや位置を揃えられる。

　(2) Ctrlキーでひとつ前の始点、Shiftキーでひとつ前の終点を指定できる。

同心円を描いたり、線分をつなげたりすることができる。

三角形の最後の頂点を指定するときにCtrlキーを押すと、正三角形を描くことができる。

　(3) 「楕円」右端（始点・終点付近）での点間隔は微妙に調整されている。

　(4) 「ペイント」

　　　 １５通りのパターンと、３つの方法（刷毛、領域指定、オートフィル）がある。

 刷毛・・・打点される位置は決まっている。右クリックで「消しゴム」。そのサイズは点間隔の値で変わる。

 領域指定・・・長方形領域と多角形領域（どこが内側か？が問題）

 オートフィル・・・領域は閉じていない！ 境界線近くが適切にペイントできる。

(5) 点図記号

　　　 点図記号は自分で作り、TZKファイルに保存して共有できる。

　　　 点図記号の標準化が望まれる。地図記号などの他、漢点字にも応用できるかもしれない。

８．下絵（画像・文字）の利用

　　　背景として画像・文字を表示し、それをなぞることで点図を描くこともできる。背景の表示倍率、表示位置、明度などを調節できる。背景なので、暗くした方が良い。

９．自動点図化ソフト「Tenka」の活用

　　白地図など、白地に黒の線画（線は細いほど良い）ならかなりうまくいく。

１０．各種の編集・変形

　(1) 対象の指定

 長方形領域と多角形領域、または、作図領域の全域を指定する。かつ、対象点種を限定できる。

　　　図形そのものの指定 →　「図形を指定して編集・変形」

　(2) 点間隔を維持して拡大・縮小することはできない。→　「図形を指定して編集・変形」

　(3) 回転などで計算誤差が現れる。

　(4) 「図形を指定して編集・変形」にはいろいろな制限がある。

　　　　EZIファイルに図形情報が保存される。が、一部消去や移動した場合などが反映されない。

　　　　Ver.8.13　より前のバージョンでは、三角形について「上位互換」の問題がある。

　(5) 「異常接近点の検出・処理」は重要。完成前に必ずチェックした方が良い。

　(6) BackSpaceキーで「取り消し」、Shift + BackSpaceキーで「やり直し」

　　　一度保存して開き直した場合やページ移動（EdelBook）した場合には効かなくなる。

　(7) 「クリップボード」、「部分ファイル」、「EDLファイルの参照・合成・比較」が利用できる。

 クリップボードはWindows一般のものとは別ものである。

１１．点字、文章

1. 「点図としての点字」は、「任意の位置」はもちろん、「定位置」であっても点図なので、点図としての編集の対象となる。「文章」の点字との違いは印刷にも現れる。「点図としての点字」は「横位置」にも書き込める。（「文章」は「横位置」には書き込めない。）また、「点図としての点字」には「挿入」モードがなく、「上書き」しかできないが、「上書き」によって修正できる。

　(2) 「文章」を書き込む機能については一応必要十分である。

　　　　３つの入力方法、挿入と上書きのモード、行末処理、墨訳、行と文字列のコピー・貼り付け等、

　　　　ページ番号付け、片面タイプと両面タイプの変換、検索と置換

　(3) 「文章」の書き込みについては、他の点訳ソフトと異なっていることがある。

 強制改ページマークの後ろへも書き込める。

 行末処理として３つの設定がある。

　　　　結果的に、他の点訳ソフトの文章データと完全な互換性を持たせることは不可能である。

１２．図入り点訳本の制作

　(1) 起動・開始の方法はいろいろある。ゼロから始める以外に、あらかじめ作成した文章を利用することもできる。起動のオプションが4通りある。

　　　　「EdelBookの新規作成」はどのモードからでも始められる。

　　　　EdelPaperのモードで、「文章の書き込み」ボタン、または、「文章→文章の入力」を押す。

 「EdelBookを開く」、または、「履歴からEdelBookを開く」

　　　　hEBKファイルをドラッグ＆ドロップする。

　　　　「関連付け」された hEBKファイルをダブルクリックする。

　　　　新規作成で開始した後、文章ファイルを差し替える。

1. ページ移動にはいろいろな方法がある。ページの追加も簡単。
2. ver.6.61 では「点字編集システム」などを同時に使うと便利。（必ず、「上書き保存」すること）

　　　エーデル８でも「点字編集システム」などを使用して文章を書くことができる。エーデル８では、「上書き保存」によって、両方向に結果が反映される。

　(4) 点図に関する独特の編集機能（EDLファイルの取り込み、EDL図のページ移動）がある。

(5) hEBKファイルを別のhEBKファイルに挿入したり、結合したりできる。また、hEBKファイルの一部を切り取ったり、コピーしたりできるため、ファイルの分割もできる。

　(6) いろいろな保存方法がある。

　　　hEBKファイルの他、「データの抽出・変換・保存」でEBKファイル、文章のみ、点図のみなどの形で保存できる。グラフィックBESファイルでの保存もできる。

　(7) 「添付テキスト」を付加できる。

　　　書くのも読むのも「ファイル → 添付テキスト」。

　(8) 点図と文章の両方について校正作業を支援するために、校正箇所にマークを付け、その一覧表を作成することができる。また、校正の前後など、ふたつのエーデルブックを比較して、点図と文章の両方について相違箇所を表示する機能もある。

１３．印刷

1. 点字印刷

USBシリアル変換ケーブルで接続し、「ドライバを介する」のが良い。

EBP のような印刷ユーティリティはない。（「QEP」 はある。）

最上部で点が縦方向にずれて接近することがあり、ページ行には「点図としての点字」を書かない方が良い。（「点図としての点字」は他の点図同様の補正を受けることもあり、点字はできるだけ

「文章」で書いた方が良い。）

1. 墨字印刷

　　　いろいろな設定項目があり、墨訳したものの印刷もできる。

１４．オプション設定

　　作図・画面・フォルダ・点字についてのオプションがたくさんある。とくに、起動方法・データ

ファイル格納用フォルダ・点訳ソフトとそのデータ形式・点字入力方法などが重要。

１５．ヘルプ

　　「エーデルの使い方」の他、「キー機能表」、「点字書き込み便覧」などもある。「エーデルの使い方」と同じ内容のテキストファイル Edel8\_Tukaikata.txt も展開されており、これは「メモ帳」などで印刷できる。

１６．その他

　(1) できるだけ最新バージョンを使っていただきたい。← http://www7a.biglobe.ne.jp/~EDEL-plus/

　(2) ご意見・ご要望、バグ情報をお寄せいただきたい。→ edel-plus@ktd.biglobe.ne.jp

　　　ホームページから行けるブログもある。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（２０１６．７．８）